

配信資料に関する技術情報（気象編） 第12号

平成9年1月30日
気象庁 予報部、気候・海洋気象部

季節予報（1か月予報）で利用する1か月数値予報モデルの変更について

1、変更内容

アンサンブル1か月数値予報に用いている全球モデルのモデル上端を10hPaから1hPaに変更する。

なお、L-FAX資料の1か月予報資料（1）画種番号192～（8）同199については形式変更はない。

2、変更日

平成9年2月7日（金）発表1か月予報から

3、検証結果

新しいモデルの鉛直分解能

現行のモデル（T63L30L）と新しいモデル（T63L30H）の鉛直解像度を図1に示す。地上から100hPaまでは前者が、それより上では後者の方が解像度が高い。

検証結果

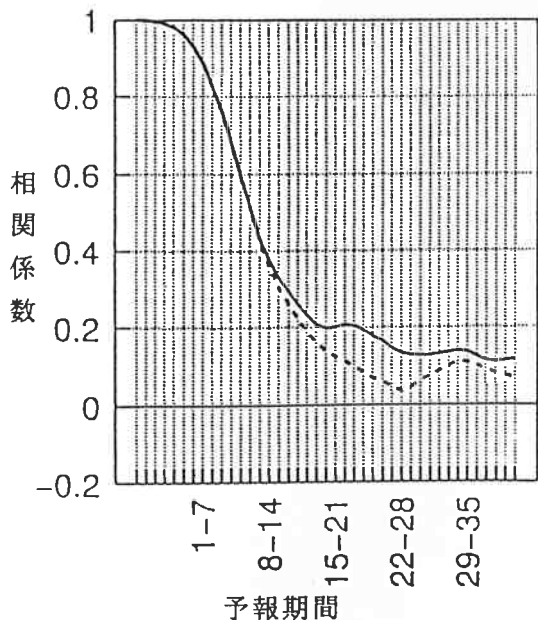


図2 北半球7日平均場 太線：新モデル 細線：現行モデル

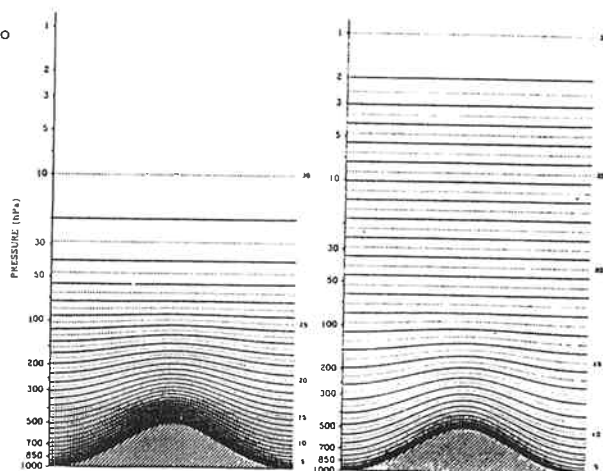


図1 鉛直の層のとり方
（右：新モデル 左：現行）

図2には、現行のルーチンモデルと新しいモデルのアノマリー相関係数により北半球7日平均場について予報精度を示した。このモデルによる予報は、予報期間後半で成績が向上しており、1か月平均についても精度が向上した。また、予報期間前半においても対流圏の鉛直解像度のより粗いことによる精度の低下はみられなかった。

担当 気候情報課 予報係 上口（内線3156）

参考資料：「平成8年度季節予報研修テキスト」（1996年9月、気象庁 気候・海洋気象部）
3か月及び暖・寒候期予報の確率表現と1か月予報資料